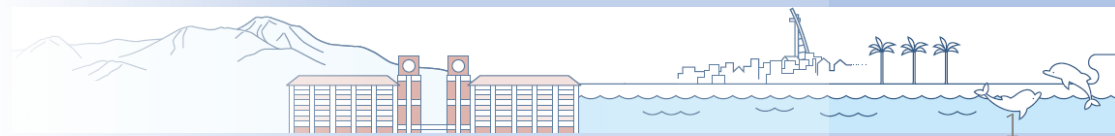


A P U 国内学生後援会 2 0 2 5 年度 地域懇談会（京都）

大学代表挨拶

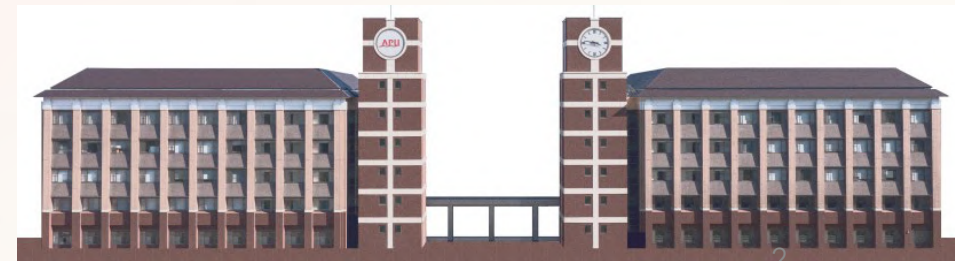
立命館アジア太平洋大学

副学長 メールマノフ セリック



本日本話させて頂く 内容について

1. APUの近況
2. 国内学生後援会事業について
3. APUの概要と今後の展望



1. APUの近況



2025年秋の「入学式」を開催。

2025年9月26日にAPUの入学式を開催。65カ国・地域出身から集まる645名がAPUに入学しました。

米山裕学長は「未来のリーダーとしての成長を期待します」と式辞しました。これに対し新入生を代表してバングラデシュのイスラム・アラファトさんが「世界中からの仲間と新たな友情を築きたい」と学生生活の意気込みを語りました。



10年で世界に誇るグローバル・ラーニング・コミュニティの確立 文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業」で 最高評価「S」を獲得

文部科学省が推進するスーパーグローバル大学 創成支援事業(以下、SGU)の令和6年度事後評価結果において、最高評価である「S」を獲得しました。APUが掲げた「Global Learning：大学教育の新しい地平を目指す」という構想が、事業目的を十分に達成し、今後も持続的な発展 が確実に期待できると評価されました。この度の評価は、本事業が10年の採択期間を満了し、2023年度で終了したことを受けて、文部科学省が各採択大学の 取り組みに対する事後評価をしたものです。 APUが開学以来維持してきた「3つの50」に加え、今回の事業を契機に新たに設定した「4つの100」を掲げ、その圧倒的なグローバル環境の 実現に向けて全学をあげて取り組み、目標を概ね達成し成果を上げたことが高く評価され「S」評価を受けました。

● APUが開学以来維持してきた「3つの50」

- 留学生比率：50%
- 外国籍教員比率：50%、
- 留学生の出身：50カ国・地 域)

●その他評価のポイント

- キャンパスの多国籍・多文化環境の構築 多国籍・多文化環境のキャンパスづくりを進め、学生が主体的に多様な視点を学び合い、協働する「多文化協働学修」を実現しました。
- 教職員の国際化とガバナンス改革 国際的な教育研究の質向上を目指し、ビジネススクールの国際認証AACSB・AMBA認証を取得することでMBAプログラムの世界水準化を達成。さらに、教職員の国際化やガバナンス改革を推進し、多様なステークホルダーの声を反映 する意思決定機関を整備しました。

●新たな 「4つの100」 達成状況

- 初年次学生教育寮体験：100%（2023年）
- 多文化協働学修実施授業率：97.6%（2022年）
- 在学中海外経験：73.7%（2022年）
- 留学生出身国・地域：106カ国・地域（2022年度）

「THE日本大学ランキング2025発表」 全国私大で4位、7年連続 西日本私大1位にランクイン

「THE 日本大学ランキング」は、英国の教育専門誌タイムズ・ハイヤー・エデュケーション（THE）とベネッセグループが大学の教学改革やグローバル化の推進を目的に公表するランキングです。ランキング指標となる「教育リソース」「教育充実度」「教育成果」「国際性」の4分野によって大学の「教育力」を測定し、今回は 257 大学がランキング対象となりました。

英国の高等教育専門誌タイムズ・ハイヤー・エデュケーション（THE）による「日本大学ランキング 2025」が、4月3日（木）17時に発表され、対象となった257大学のうち立命館アジア太平洋大学は、前回（2023年3月発表）に引き続き**全国の私立大学で第4位**、さらに**7年連続で西日本の私立大学において第1位**の評価となりました。総合順位は、前回と同じく**第22位**となりました。4分野から構成される分野別のランキングでは、「国際性」で**全国第2位**、「教育充実度」では4年連続で**全国第3位**となりました。「国際性」は外国人学生比率、外国人教員比率、外国語で行われている講座の比率など、国際的な環境が評価されます。「教育充実度」は、大学生・大学院生への調査（教員・学生の交流、授業・指導の充実度、大学の推奨度など）による満足度が反映されます。また、高校教員を対象とした評判調査結果（グローバル人材育成の重視、入学後の能力伸長）から、どれだけ教育への期待が実現されているかを表しています。APUでは、2000年の開学以来、日本人学生と留学生の比率50%を目指し、現在では112ヵ国・地域から学生が集う国際性豊かな学びの環境を維持しています。その環境を活かして、授業では、ディスカッションやグループワーク、フィールドワーク、企業連携プロジェクト、海外研修など、実践的かつ参加型の学びを重視してきました。こうした継続的な取り組みが、今回の高い評価につながったものと考えています

総合順位 全国私立大学トップ10

- 1 国際基督教大学
- 2 慶応義塾大学
- 3 早稲田大学
- 4 **立命館アジア太平洋大学**
- 5 上智大学
- 6 立命館大学
- 7 芝浦工業大学
- 8 神田外国語大学
- 9 東京理科大学
- 10 立教大学

「教育充実度」が高い大学 トップ5

- 1 国際基督教大学
- 2 国際教養大学
- 3 **立命館アジア太平洋大学**
- 4 東京工業大学
- 5 一橋大学

「国際性」が高い大学 トップ5

- 1 国際教養大学
- 2 **立命館アジア太平洋大学**
- 3 国際基督教大学
- 4 大阪女学院大学
- 5 関西外国語大学



私たちが、世界を変える。

APU、第2の開学。

未来の教育を拓く新制度

2025年度『特命副学長決定！！』

25年度 特命副学長



国際経営学部
アシュミ ジャハ インド



佐賀県立致遠館高校2年
本多 未侑

高校生

高校生 特命副学長

役割/活動

- 地域と文化を越えた同世代の仲間と共に、これからの新しい大学像、教育の未来像につながるような政策・企画の立案
- 必要に応じた外部機関（教育機関、企業、市町村自治体）へのヒアリングや連携
- 活動に関する情報発信と、学内外の各種イベントへの参加、発表、取材対応
- 在校生特命副学長との連携
- 普段の活動は学業に影響でない範囲で、通常の活動は平日や週末、長期休暇期間を活用し、外部組織や大学と月に一回程度の打ち合わせの可能性があります。

高校生 サミットメンバー

役割/活動

- 高校生副学長とともに、これからの新しい大学像、教育の未来像につながるような政策・企画の立案
- 必要に応じた外部機関（教育機関、企業、市町村自治体）へのヒアリングや連携
- 活動に関する情報発信と、学内外の各種イベントへの参加、発表、取材対応
- 普段の活動は学業に影響でない範囲で、通常の活動は平日や週末、長期休暇期間を活用し、外部組織や大学と月に一回程度の打ち合わせの可能性があります。

在校生

在校生 特命副学長

役割/活動

- APUのあるべき姿を考え、それにつながる新たな政策、企画の立案
- 必要に応じた外部機関（教育機関、企業、市町村自治体）へのヒアリングや連携
- 大学評議会（大学の最高意思決定機関）への提言
- 活動に関する情報発信と、学内外の各種イベントへの参加、発表、取材対応
- 高校生特命副学長との連携

在校生 サミットメンバー

役割/活動

- 在校生副学長とともに、APUのあるべき姿を考え、それにつながる新たな政策、企画の立案
- 必要に応じた外部機関（教育機関、企業、市町村自治体）との連携
- 在校生副学長と連携し、大学評議会への定期的な出席
- 学内外の各種イベントへの参加、発表、取材対応



24年度 特命副学長と支えるサミットメンバー

APU の 近 況

国立陽明交通大学(台湾)と包括連携協力協定を締結 -ハイテク産業における国際マネジメント人材育成-



協定締結後に握手を交わす米山学長(左)と林学長(右)



協定締結後の両大学出席者による集合写真

立命館アジア太平洋大学(大分県別府市、学長:米山裕、APU)と、国立陽明交通大学(台湾、学長:林寄宏、NYCU)は、2025年7月3日(木)国立陽明交通大学にて「ハイテク分野における多文化マネジメント人材の育成」を目的とした包括的な連携協力協定を締結しました。理系学部を有さないAPUにとって、本協定は半導体をはじめとするテクノロジー分野の知見拡大の大きな一歩となります。産業界の国際化が進むにつれ、企業は専門スキルに加え、異文化、宗教、慣習などへの理解を体得したコミュニケーション能力とマネジメント能力を備えた人材をますます必要としています。テック業界においても技術者に限らず多文化マネジメント人材が不足しているという背景を踏まえ、NYCUの持つテック分野の強みとAPUの持つ異文化理解・多文化協働力といった強みを活かして、今後は両大学のビジネススクール間の連携強化やNYCUの半導体学部との連携を進めます。

APUのグローバルな文系教育、またはNYCUの世界最先端の技術分野の融合により、両大学の更なる発展を目指し、APUとNYCUは以下の分野において連携を進めていく予定です。

【包括連携協力協定 概要】

- ・教職員や研究者の相互交流
- ・デュアルディグリープログラムの検討(2大学の学位を同時に取得するプログラム)
- ・共同研究や講義・シンポジウムの実施 - 半導体に関する基礎知識講座での協力
- ・ハイテク産業における国際経営人材の共同育成
- ・双方が合意したその他の学術協力の促進

「半導体国際ビジネス人材育成プログラム」を始動 -多文化環境で育む、文理融合の半導体ビジネス人材の育成へ-

九州エリアのさまざまな半導体関連企業と連携した正課外プログラム「半導体国際ビジネスマネジメント人材養成プログラム」を7月12日から実施いたします。本プログラムは、大分県内を中心とした約15の企業・団体と連携し展開されます。近年、九州各地で半導体関連の大きな動きが続く一方で、日本国内における半導体産業の人材育成が急務となっています。業界内では、理系人材だけでなく、異文化・宗教・慣習などへの理解を持ち、グローバルな視点でコミュニケーション能力とマネジメント能力を備えた「多文化マネジメント人材」へのニーズも高まっています。



担当教員 藤田正典(フジタマサノリ)教授

国際的に活躍できる半導体ビジネス人材の育成

- ・半導体業界の概要・サプライチェーン・基本技術
- ・半導体業界の産業構造・行政施策
- ・九州の半導体クラスター・事例



Contents

1. グランドデザインの位置付けと策定にあたっての基本的な考え方
2. 目指す姿=ビジョン「新生シリコンアイランド九州2040」
3. ビジョン実現に向けた課題および課題解決の方向性
4. 今後の取組みについて

社会課題の解決を目指す学生が集う施設が新たにOPEN！！

.KNOTs (ドットノッツ)

学生が持ち込んだ社会課題にプロジェクトマネージャーが壁打ち役となり、課題解決策の指導や方向性のヒント、連携できる組織や企業などへの繋ぎ、そして、解を導き出す場所です。

「.KNOTs」は文部科学省「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出事業」の一環として九州の企業や地域の抱える多様な課題を発見・解決へと導くことを目的として活動する産学連携プログラムです。

また、今後は異文化理解・ダイバーシティ&インクルージョンなどを強みとするAPUと科学技術・AIやデータサイエンスなどを強みとする国立大学法人九州工業大学の特色を掛け合わせて取組を進めていきます。

これにより新たな価値を創出し社会をより良くするための変革を先導し実現できる人材の育成と九州から世界へさらなる国際化の実現を目指します。

大学の研究
活動と学生
の意欲



地域課題の
解決に貢献

ドットノッツ
Green Commons J棟2階 「.KNOTs」
APU Connection Hub

学生・企業・地域が挑むリアルな地域課題に向き合い、
問題発見・課題解決を行う場所です。

5/26
Mon.
START!
10:00~18:00

「.KNOTs」は「結び目」という意味を持ち、学生と企業が繋がり、
新たな価値を生み出すことを目指しています。

K : Knowledge (知識)
N : Network (ネットワーク)
O : Opportunities (機会)
T : Transformation (変革)

【例えば】

- アイディアの壁打ち相手が欲しい
- 同じ課題に関心がある仲間を作りたい
- 地域課題解決に取り組んでいるが、次のアクションを模索している
- 様々な課題解決に取り組む人たちと交流したい
- 活動内容をイベントなどでアピールしたい

コワーキングスペース

テーブル、椅子は自由にレイアウト可能。
目的に合わせてフレキシブルにご利用ください。

2. 後援会事業について



国内学生後援会について

2025年度 国内学生後援 役員体制

APU国内学生後援会会員の皆様へ



APU国内学生後援会
2025年度会長 寺澤 佐千夫

国内学生後援会の皆様、日頃より当会の活動にご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、本年度、APUは開学25周年を迎えました。開学以来、世界に誇れるグローバル・ラーニング・コミュニティの構築など大学の発展にご尽力頂いた大学関係者の皆様にもずもって感謝いたします。

このような節目の年に重責を担わせて頂くこととなり身が引き締まる思いですが、『世界を変える人を育てる』とのAPUのビジョンのもと、学生が思う存分に学び成長できる環境づくりを支えるべく、当会は主に以下のような事業を実施して参ります。

1 100円朝食の実施

学生の健康な食生活を支えるため、好評の「100円朝食」を本年度も実施する予定です。当会として重要な支援策の一つと考えておりますので、現状の通年実施が継続できるよう努力・工夫して参りたいと考えております。

2 犯罪等防止の啓発活動の実施

未来のある学生が犯罪や違法行為等に手を染めたり巻き込まれないよう各啓発活動を支援いたします。本年度は、APU学生メンバーや別府警察署の協力のもと、違法薬物使用に関する啓発動画を作成し、大学のHPや学内のデジタルサイネージ等を通じて啓発を図って頂く予定です。

3 定例・地域懇談会の開催

本年度の定例・地域懇談会は全国6か所で実施予定です。

在学生及びOB・OGにより行われる個性あふれるプレゼンは毎回素晴らしく感動しますし、充実したAPU生活の一端や卒業生の活躍をリアルに知ることができます。また、同日実施の後援会員の皆様や学生らとの交流会は、会員相互の親睦や情報交換をはかる貴重な機会となっております。

会員の皆様におかれましては、最寄りの定例・地域懇談会の日程をチェックのうえ是非とも参加頂きたいと思っております。

4 その他

修学奨励奨学金・弔慰金給付の支援事業のほか、本年度は、25周年記念事業への支援、生理用品常設設置支援等を予定しています。

私は、エネルギーで進取の気風に富むAPUが大好きです。

この素晴らしいキャンパスで学べる学生たちがより輝けるよう力強く温かいサポートに取り組んで参りますので、会員の皆様には一層のご理解とご協力を賜りたく、何卒お願い申し上げます。

2025年4月
APU国内学生後援会

2025年度 APU国内学生後援会 役員体制 【肩書・敬称略】

■役員

	2025年度			2024年度後継
会長	寺澤 佐千夫	愛知県	ST 3回生(5セメ)	副会長
副会長	平野 孝	神奈川県	ST 3回生(5セメ)	監事
監事	東口 宗寿子	福岡県	APM 2回生(3セメ)	運営委員
運営委員	荒牧 順子	佐賀県	APS 2回生(3セメ)	運営委員
	赤井 正幸	大阪府	APM 1回生(1セメ)	—
	財前 直見	大分県	ST 1回生(1セメ)	—

※ 2024年度会長 最田貴子様、運営委員 長野恭紘様 は、2025年度ご退任。

■学内役員

	2025年度	
名誉会長	米山 裕	APU 学長
顧問	森島 朋三	学校法人立命館理事長
	仲谷 善雄	学校法人立命館総長

■学内幹事

	2025年度	
幹事長	淺野 昭人	APU 副学長
幹事	大澤 芳樹	APU 事務局長
	井上 智香子	APU 副事務局長
	石坂 和幸	APU 副事務局長
	栗山 俊之	APU 事務局次長
	日野 智志	APU 事務局次長
	前田 真志	APU 事務局次長
	岡田 航洋	アウトリーチリサーチオフィス 課長

※ 任期は、会則に則り、本年度第1回運営委員会から次年度第1回運営委員会までの1年間とする。

2024年度役員 2名のご退任

■ 2022年度~24年度 2024年度会長 最田貴子様



■ 2022年度~24年度 運営委員 長野 恭紘様



国内学生後援会について

定例懇談会・地域懇談会の開催

【5月18日定例懇談会APUにて開催】

■ 参加者 31名（個別相談会7件）



【6月22日地域懇談会福岡にて開催】

■ 参加者 58名（個別相談会11件）

【7月26日・27日地域懇談会立命館東京キャンパスにて開催】

■ 参加者 合計193名（個別相談会61件）※計3回実施



【10月5日地域懇談会 北海道にて開催】

■ 参加者 16名（個別相談会4件）

【10月5日地域懇談会 APUにて開催】

■ 参加者 64名（個別相談会13件）



【今後の地域懇談会の開催】

■ 京都会場 11月9日（日）

立命館朱雀キャンパスにて（今回）

■ 愛知会場 11月29日（土）

安保ホール名古屋にて

詳しくは、QRコード
より参照下さい。



国内学生後援会について

後援会学生生活支援事業『100円朝食』

【2025年4～7月の実績】

- 利用数 9,568人 ※2024年度1年間の実績35,417名
(国内学生：5,937名・国際学生3,631名)
- 補助額
421円の朝食を⇒100円で提供 (321円の補助)

後半期秋セメスター
(10月～翌年1月末まで実施)



国内学生後援会について

後援会啓発事業「違法薬物乱用防止」動画作成（24年度）

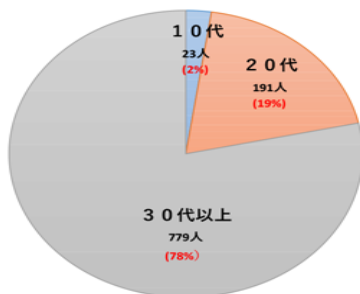
作成した動画は
こちらのQR
コードからご覧
になれます。



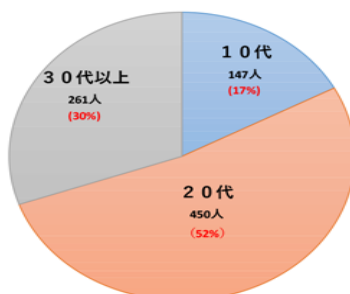
若者への大麻の広がり

下記のグラフは、令和5年の覚醒剤・大麻検挙人員の年齢内訳です。

R5覚醒剤検挙人員（年齢内訳）



R5大麻検挙人員（年齢内訳）



大麻事犯では10代・20代の若年層の割合が多いことがわかります。
若者への大麻の広がりが、大麻事犯の増加に繋がっていると言えます。



国内学生後援会について

6/23開催

後援会啓発事業「熱中症対策アンバサダー™講座」開催

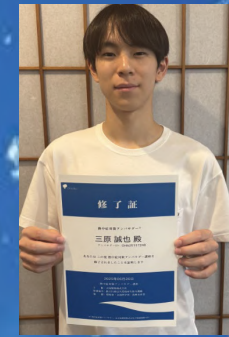
異常気象の夏、学生自ら“命を守る知識”を広げる産学連携
APU × 大塚製薬「熱中症対策アンバサダー®講座」を初開催
～啓発と実践を通じて、未来のアンバサダーを育成～



異常気象が常態化する中、学生における様々な活動中の熱中症リスクの高まりが懸念されています。APU国内学生後援会の「学生支援事業」の一環として、在学生を対象に熱中症に対する正しい知識と行動を広めることを目的に、大塚製薬株式会社との連携により「熱中症対策アンバサダー講座」を開催しました。本講座では、熱中症の基礎知識や発症時の適切な対応などについて、大塚製薬の専門スタッフが学生向けに分かりやすく解説。学生自身が正しい知識を持ち、仲間や周囲へ熱中症対策の重要性を伝える“熱中症対策アンバサダー”としての役割を担えるよう育成することを目指します。APUで開催される当講座では、。学生の主体性を引き出すと同時に、キャンパス全体でのリスク回避につなげる取り組みです

【大塚製薬の熱中症対策啓発活動】 大塚製薬は1992年より、科学的根拠に基づく水分・電解質補給の重要性を訴え、啓発活動を開始しました。スポーツ現場や教育機関などを中心に、30年以上にわたり多様な場面で熱中症対策を啓発しています。「熱中症対策アンバサダー講座」では、正しい知識を持ち周囲に広める人材の育成にも注力しています。誰もが命を守る行動を取れる社会の実現を目指し、今なお進化を続けています

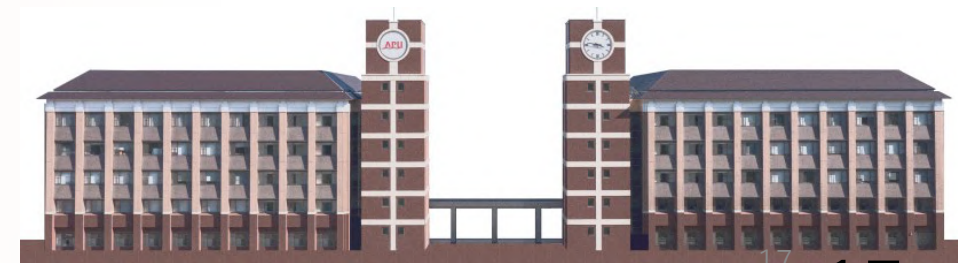
30名が「熱中症対策アンバサダー」に認定！！



■ 実施後のアンケート（抜粋）

- ・身近な人が熱中症になったときに、知識があった方が役立つと思ったから。
- ・正しい知識を持って周りの人の安全を守りたいと思ったから。
- ・自身が代表を務めているサークルで、実際に熱中症の人がでてしまったときに、どのように対処すべきか学びたかった。
- ・おばあちゃんに教えるため

3. APUの概要と今後の展望



多文化共生型キャンパス

世界 **111**

カ国・地域からの

国際学生 3,160名 と 国内学生 3,381名

合計 6,541名 が学ぶ 国際大学

(2025年5月1日付/学部生、大学院生、交換留学生などの非正規生含む)

開学以来、学生が在籍
したことがある国・地域

170

学生数のうち
外国人留学生比率

48.3%

外国人留学生のうち
正規生比率

95.2%

教員総数

212 名

外国籍教員総数

98 名

外国籍教員比率

46.2%

※教員総数は専任の教授、准教授、助教、講師の合計
(2025年5月1日付)



特徴ある3学部の学び

APS

アジア太平洋学部

入学定員 510名/年

文化・社会・メディア

グローバル経済

国際関係

ST

サステナビリティ観光学部

入学定員 350名/年

環境学

資源マネジメント

国際開発

地域づくり

社会企業

観光学

データサイエンスと情報システム

ホスピタリティ産業

観光産業

APM

国際経営学部

入学定員 610名/年

経営戦略・リーダーシップ

マーケティング

会計・ファイナンス

アントレプレナーシップ・
オペレーションマインド

学部

GSA

アジア太平洋研究科 博士前期課程

入学定員 60名/年

アジア太平洋研究科 博士後期課程

入学定員 10名/年

GSM

経営管理研究科（修士課程）

入学定員 40名/年

大学院

国際学生が約半数

英語・日本語を徹底的に
鍛える言語教育

約半数を占める外国籍教員から
世界の「いま」を学ぶ

学部は日英二言語、
大学院は英語のみで開講

APU独自の教育スタイル

大学生活を**成功**に導く、 **多文化協働**クラス

学部に関係なく全員が初年次に受講する「[多文化協働ワークショップ](#)」では、大学生活を成功させるためのスキルが学べます。多国籍が混じり合う少人数グループに分かれ、半年間かけて共に課題に取り組むなかで、APUでの学生生活に必要な言語力、異文化理解力、コミュニケーション力の修得を目指します。

ディスカッションと **実践**を重視した講義内容

教員・学生同士でのディスカッションを授業内で頻繁に行うことで、論理的思考を鍛錬するとともに、相手の意見に耳を傾けつつ発信するコミュニケーション力を磨きます。学生には国内外の現場でリサーチを行うフィールドスタディを推奨しており、実社会で活かせる問題解決能力の修得を促しています。

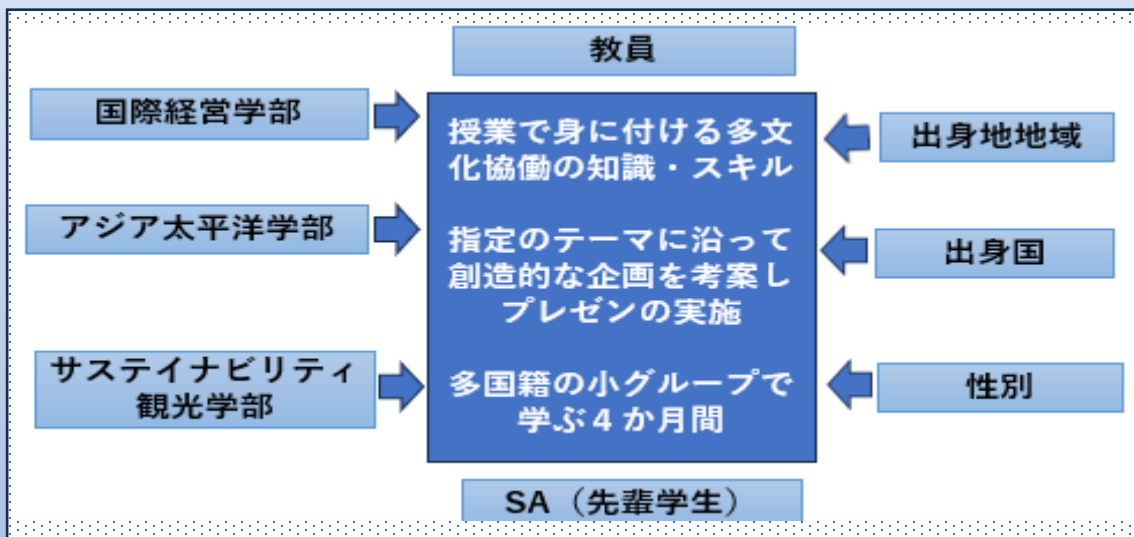
世界を舞台にした、 学生同士の**学び合い**

APUには、より良い社会の実現に貢献したいと志す学生が世界中から集まっています。多くの学生たちは、高度な知識を持った選りすぐりの教員たちの指導のもと、チームで切磋琢磨し、国内外の様々な分野における大会で優秀な成績を残しています。世界を舞台に活躍する仲間たちとともに、国際水準で戦えるプレゼンテーション能力、クリティカルな思考と交渉力を養うことができます。

APU独自の教育スタイル『多文化協働ワークショップ』 (MCW: Multi Cultural Workshop)

全学生約6000人の半分以上が、100以上の国・地域から集う留学生

APUでは授業内外において、多国籍な学生同士の協働作業を日常的に行います。この環境を存分に活かして4年間学ぶには、コミュニケーションや多文化協働のスキルの鍛錬が必須です。そのために1回生が必ず受ける授業が、多文化協働ワークショップ。大学生活を成功させるためのスキルを獲得できる仕掛けとして開講しています。



■ 多文化協働ワークショップにより高められる能力

1. グローバル社会に対応できるマインドセット

- 異なる文化に属する人々に対して持つステレオタイプ、偏見、思い込みに気づくことができる。
- 自文化を中心としたものの見方から抜け出し、文化的背景の異なる人々の視点から物事を見、感じることができる。

2. 多文化協働の基本スキル

- グループの一員として自分からできることを探して行い、グループ活動に積極的に貢献することができる。
- グループメンバーが自分は尊重されていると感じられるように、メンバーの個性とグループへの所属感を大事にした態度や声掛けができる。

3. 高いコミュニケーションスキル

- コミュニケーションのとり方がいかに異なりうるかを理解し、状況に応じて異なるコミュニケーションスタイルを実践できる。
- 文化的背景の異なる人々の文化や生き方に好奇心を持ち、心を開くことができる。



APU独自の教育スタイル『多彩なアクティブ・ラーニング』

国内・外、短期・長期と多様なプログラム

日本人学生は卒業までに一度は海外での学びを体験することを目指す

DIFFERENT CULTURE

異文化を体験する

FIRST

1 回生向け異文化体験学習プログラム

- ▶ 言葉の通じない国・地域で調査を行う新入生対象のプログラム



SPECIALTY

専門を学ぶ

交換留学・共同学位

- ▶ 交換留学では、現地の学生とともに専門の科目を履修



LANGUAGE

言語運用能力を高める

言語イマージョン

海外言語集中研修

- ▶ 海外の大学のキャンパスや大学付属の語学学校などで集中的に学習



専門分野調査研究型プログラム

フィールド・スタディ

- ▶ 専門分野の理解を深めるために、現地で調査と研究を行う



APU独自の国際教育寮『APハウス1・2・5(キャンパス内)』

違いを知る。認める。そのうえで課題について
とことん話し合い、
「**解決策**」を導き出す力を育む



国際学生と国内学生 1,326名がともに暮らす

寮生の国際学生比率 **42.5%**

2025年5月1日現在

シングルタイプ シェアタイプ ユニバーサルタイプ

収容可能

1,186室 + **378**室 + **7**室 = **1,571**室

VALUES

互いの生活習慣や
価値観の違いを知る

- ▶ シェアタイプは日本人学生と国際学生が隣り合わせ
- ▶ 共同キッチンで互いの国・地域の食文化に触れる



NOURISH

学び合い、
助け合う心を養う

- ▶ 日常生活の空間で他言語・多言語学習
- ▶ 授業やレポートの教え合い・学び合い
- ▶ 毎月フロアミーティングを実施



RULE

ルールを作り、
学生スタッフが運営

- ▶ RA (レジデント・アシスタント) が寮生をサポート
- ▶ 各種イベントの企画・運営
- ▶ フロアを巡回、ゴミ分別チェック



EVENT

イベントを通じて交流を深める

- ▶ フロアや棟ごとにパーティーやイベントを開催
- ▶ 各国の文化を紹介する企画 ▶ 世界祭 (寮祭) の実施
- ▶ 広島・沖縄などを目的地にし、「平和」がテーマのツアーを開催



※ APハウス3・4 (APU Plaza Oita) はオフキャンパスにあります。

2024年度進路状況

		国内学生	国際学生	合計				
卒業生・修了者 ¹		639	622	1,261	アジア太平洋学部	国際経営学部	大学院	合計
卒業生進路内訳	就職決定報告者	504	330	834	388	374	72	834
	進学者 ²	23	91	114	51	55	8	114
	その他 ³	112	201	313	150	132	31	313

例) 1. 卒業生・修了者…2023年9月、2024年3月学部卒業生・大学院修了者（国際学生含む） / 2. 進学者…大学院・大学進学者 / 3. その他…帰国、進学・資格試験の受験準備、就職活動継続、留学、専門学校、家事従事など

2024年度

就職決定率

就職決定率 = 就職決定報告者 /
就職希望者（2025年3月31日現在）

92.8%

国内学生
就職決定率

95.1%

国際学生
就職決定率

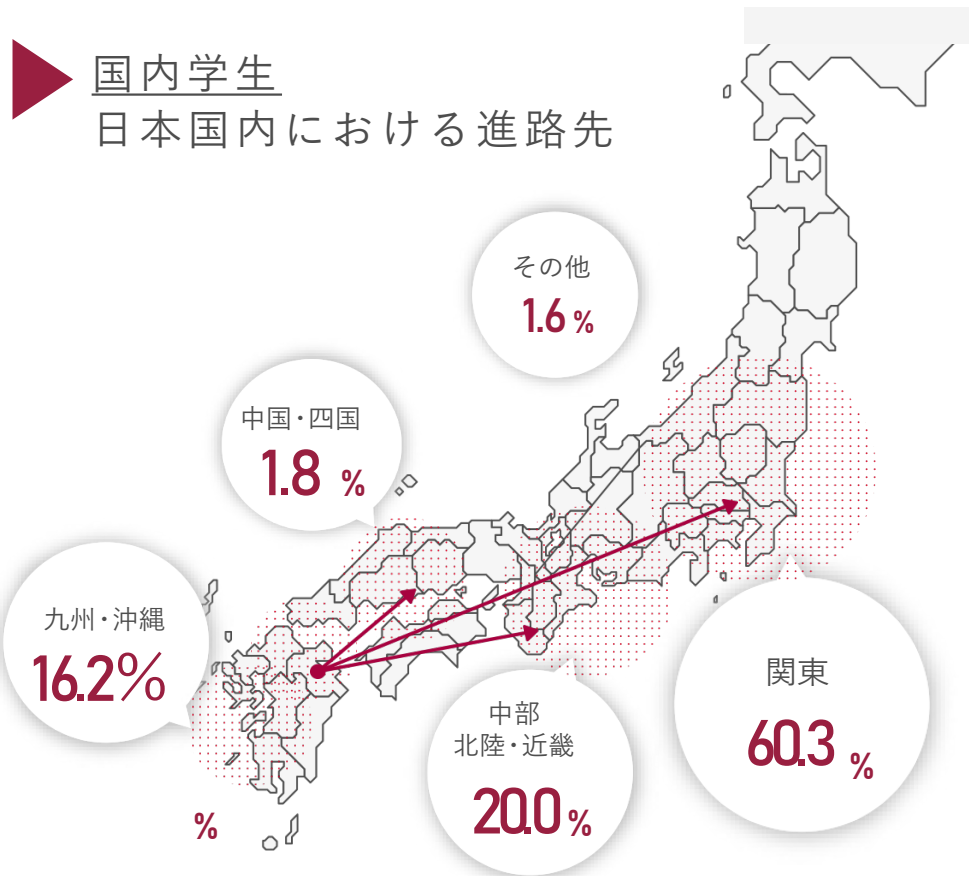
88.7%

地域別・業種別就職者割合

国を越える

コミュニケーション力・積極性・協働性に高評価

国内学生
日本国内における進路先



国内学生 ▶ グローバル企業を通じて全世界へ

国際学生 ▶ 日本企業 or 母国へ

業種別就職先企業（日本国内）

【国内・国際】

国内学生	100.0%
サービス	27.7%
メーカー	22.5%
IT・情報処理	14.3%
商社	8.8%
流通	6.6%
運輸・倉庫	6.4%
金融	5.9%
情報（通信・マスコミ）	3.9%
官公庁・団体	2.9%
教育機関	0.6%
医療・福祉施設	0.2%
専門・技術サービス業	0.2%

国際学生	100.0%
サービス	39.0%
メーカー	16.0%
IT・情報処理	14.1%
商社	8.0%
金融	7.5%
流通	6.1%
運輸・倉庫	3.8%
官公庁・団体	1.9%
医療・福祉施設	0.9%
教育機関	0.9%
情報（通信・マスコミ）	0.9%
エネルギー	0.5%
専門・技術サービス業	0.5%

APUの新たな3つの挑戦

民族、宗教、文化、利害
などの分断と対立

地球規模での人類の課題

デジタル技術の進展と
生活・社会への影響

経済格差の拡大
社会的不平等

Leap Beyond Global, Leap to Diversity & Inclusion

コンフリクト、混沌の克服

個の成果を社会に実装

多様性に
富んだ環境

『混ぜる』

多文化、多国籍に加え、あらゆる属
性の多様性が集まりともに学ぶ
大学へ

ライフロング・ラーナー

包摂性を
高める

『受け入れる』

自己理解と他社理解による、多様な個
性・特性を受け入れられるコミュニ
ティを創成

ダイバーシティ&インクルージョン
(D&I) 実践・D&I推進人材育成

社会変革と
価値創造

『解を出す』

多様な人材・視点が社会課題・地域課
題の解決に貢献しイノベーション創出
とウェルビーイングを実現

大学の役割の転換
イノベーター/ファシリテーター

「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」に採択

「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」に採択 ～九州から世界へ、新たな価値創造の挑戦～



- ・国際教育・インクルーシブ教育
- ・ダイバーシティ環境の提供
- ・ビジネス開発の実践



- ・高度科学技術教育
- ・実験実習環境の提供
- ・起業家育成・ベンチャー支援

【インパクト創出を目指す6つのポイント】

本プログラムを通じて以下の6つの成果を目指します。

- 異なる文化と協働し、社会を変革する人材を輩出
- 地域における課題解決エコシステムの創出
- 高度専門人材の地域流入・地域定着
- 大学を結節点とした海外・国内各地域の橋渡し
- 初等・中等段階からの地域社会グローバル化
- 多様で包摂的な協働・共創の実践の場を提供

《採択プログラムの概要》

【テーマ】

Leap Beyond Global: 組織・地域・分野を超えたグローバルな価値創出

【目指す方向性】

- ① 多様性の再定義 国籍やエスニシティに加え、年齢、ジェンダー、学修分野、多様な特性など多次元の多様性を高め、地域社会や大学 の枠を超えた包括的な協働環境を構築します。
- ② 「混ぜる」から「解を出す」 多文化共修を基盤とし、リアルな社会課題に挑み解決策を提示。さらにテクノロジーを活用した社会実装を推進し、社会にインパクトを与えられる人材の着実な育成を目指します。
- ③ 理論と実践の融合 両大学の学生が多様なステークホルダーと連携し、地域や大学と関係する世界の「地域」をフィールドとした学びを 推進。2つのキャンパスを課題解決と実装の場として活用します

「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」に採択

「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」に採択 ～九州から世界へ、新たな価値創造の挑戦～

【共同取り組みの主な内容】

- 1. 「多文化共修と多分野融合の推進、多文化環境の創造」** APUと九州工業大学が共同で、多文化環境での学びと文系・理系の垣根を超えた融合教育を展開します。両大学が連携し、以下2つの内容で、22科目以上の多文化共修科目を開発します。
 - 多文化共修科目の共同実施 それぞれの大学で、地域社会における問題の発見や課題抽出、そこからの解決策の提示と実装までの過程を、正課・正課外の学びの中に組み込む取り組みを行います。同時に2大学のそれぞれの強みや専門分野を提供し合い、正課・正課外の科目の共同実施を行います。九州工業大学が提供する理工系科目とAPUの国際的視点を活用した授業を共同開発します。
 - 国際教育寮「APハウス」の活用 APUの国際教育寮を拠点として、両大学の学生が地域課題に取り組む共創型の仕組みを構築します。
- 2. 「九州をフィールドとした社会課題解決型プロジェクト」** APUと九州工業大学が共同で、九州地方の課題解決を通じて社会的価値を創造します。
 - 課題解決プラットフォーム「Localink」の運営 両大学が協力して、地域企業や自治体と連携し、学生と地域の課題をマッチングする仕組みを構築します。九州の地域社会が直面する課題をグローバルな視点で解決します。• 地域連携ワークショップ 別府市や飯塚市を中心に、産学官連携プロジェクトを共同で実施します。地域企業の課題に対し、APUと九州工業大学の学生がそれぞれの専門性を活かして解決策を提案します。
- 3. 「STEAM教育と社会実装の強化」** APUと国際教育と九州工業大学の科学技術教育を融合し、次世代のグローバルリーダーを育成します。
 - AI・データサイエンスを活用した教育プログラム 両大学がAIやデータサイエンスを活用した授業を共同で開発し、理系分野への関心を持つ学生の育成を目指します。
 - テクノロジーを活用した社会課題解決プロジェクト 最先端技術を活用したプロジェクトを共同で推進し、学生が学びを社会に実装する機会を提供します。
- 4. 「グローバルな価値創造ネットワークの形成」** APUと九州工業大学が連携し、九州を起点に国内外で課題解決を進める仕組みを構築します。
 - グローバルリーダーシップ科目 両大学の学生を対象に、システム思考やソーシャルインパクトを中心に据えたリーダーシップ教育を推進します。
 - 海外ケーススタディプログラム 世界各地の課題を題材とした共同プログラムを実施し、学生が国際的なビジネスや社会問題に挑戦します。

本日はご参加いただきありがとうございました。

引き続きのご支援よろしくお願い申し上げます

Shape your world

立命館アジア太平洋大学

住所: 十文字原別府1-1 大分県大分県 874-8577

Tel: +81-977-78-1119 (英語) +81-977-78-1200 (日本語)